

デザイン学科教授 片岡 祐司

1. 研究活動

<p>受託研究 ナガサキ工業株式会社 (チームエコラボ) 新製品デザイン開発プロジェクト</p>	<p>2015. 4. 1～ 2016. 3. 31</p>	<p>名古屋芸術大学デザイン学部デザイン研究所プロダクト&スペースブロック分野</p>	<p>名古屋芸術大学デザイン学部デザイン研究所プロダクト&スペースブロック分野、及び、デザイン学部インダストリアルデザインコースは、東海地区の地元中小企業による地域産業活性化のための研究組織『チームエコラボ』に所属するナガサキ工業株式会社の依頼により『新製品デザイン開発プロジェクト』を受託、新製品のデザイン開発を行い地域の活性化に貢献した。</p>
<p>【ホンダデザインセミナー2015】</p>	<p>2015. 6. 5～7</p>	<p>ホンダ技術研究所主催 名古屋芸術大学 I D コース協賛 会場：名古屋芸術大学西キャンパス X 棟313, 314 教室</p>	<p>カーデザイナーの育成を目的に、株式会社ホンダ技術研究所が主催、名古屋芸術大学が協賛するデザインセミナー、東海地区の大学や専門学校でインダストリアルデザインを専攻する総勢28名（名古屋芸大生18名）の学生が参加した。</p>

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目名 演習Ⅱ		課題は『キッチンツール』をテーマとしたデザイン課題。料理をすることからキッチンにおける道具の研究を行い問題点や課題を発見。これをユーザーの立場を踏まえたユニバーサルデザインやエコの観点からコンセプトを立案しデザイン展開を行った。デザインは単に形にするだけではなくその造形美も必要であり、これについても同時に研究しデザインモデルの制作した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイナーとして重要なプロセスと造形手法に重点を置いた演習。学生は、初期のコンセプト構築方法の習得、スケッチ表現、イメージを立体に置き換える訓練、機能とスタイリングを両立させるデザインを研究する。また、平面のアイデアを立体に移行する技術やそれぞれの的確な表現、『人』と『もの』との関係、さらに美しい形へ集約する手法を習得する。	デザインの現場にできるだけ近似した内容のパワーポイントを毎回作成しこれを活用した講義。	
授業科目名 デザイン実技Ⅲ（PS）ID		デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加した。 1. ウェルフェアの見学（ユニバーサルデザイン関連） 2. アクシスギャラリー『金の卵』展参加 後期授業ではカーデザインに集中したカリキュラムとし、より専門的な経験を積むことができるようカリキュラムを展開した。また、企業によるデザインの特別授業を積極的に取り入れ、卒業後の進路や、現場のデザインを理解できるように配慮した。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイン表現力の向上を第1目標とし、スケッチ、レンダリング、モデリングを、実際に手を動かしながら指導を行った。また特別公開講座によるスケッチセミナーにも授業として参加した。	プロデザイナーのスケッチやイメージボードなどできるだけ現場での仕事が体感できるような資料、情報を提供した。	
授業科目名：インターンシップ演習		実際の現場での体験を行うことにより、初歩的な職業的技能を身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てることができた。また、各自の職業に対しての適正も確認することができるよう配慮した。この積み上げが成果をあげてきており、毎年インターンシップの希望者が増加してきている。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
企業での職業体験を通し、実社会でのデザイナーとして働くために心掛けておかなければならないことを理解すると同時に、これに関する事前授業を行い、マナーやルールを指導した。	学生支援課と共同でインターンシップ企業に関する資料、マナーやルールについてのテキストを作成。	
授業科目名：卒業研究		最終学年の最後の作品として、調査から課題の発見、その研究に基づき、製品を開発するまで、プロとして生きていくためのデザインプロセスを体験させた。JIDA次世代委員会学生卒業訪問参加。
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
各学生の自主性を重視、より広い範囲にその課題を求め、実体験を積み重ねる中で課題を発見するように指導。	あえて、資料を用意せず、各自が自分自身の手で素材を発見することを求めた。	

3. 学会等および社会における主な活動

自動車技術会『2014年度技術部門貢献賞』受賞	2015. 8. 21	「自動車技術会」は、自動車関係の技術者を中心に会員数5万名に及ぶ日本最大の学会で、50ほどの専門分野別の委員会、研究センターを持っており、その中のデザイン部門委員会に所属。このデザイン部門委員会、2002年開設時の幹事を務め、シンポジウムやフォーラム、オーガナイズドセッションの開催、その座長や司会なども務め、論文も多数発表。最近は、小中学生向けのデザインイベントや、中高生向けのデザインコンテストの開催にも積極的に参加し、その長年に及ぶ活動が評価され、2014年度技術部門貢献賞を受賞した。
1日芸大生	2015. 8. 2	小学生のためにデザインの実体験とおして、その楽しさを理解してもらうイベント。IDコースでは、真空成型の実体験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。
自動車技術会デザイン部門委員会主催『カーデザインに挑戦』 カーデザインコンテスト開催 ウェブサイト『カーデザインに挑戦』運営	2012. 11～2016. 3	本イベントは、自動車技術会の育成事業として2012年度より開始し、中高生に向けて、カーデザインを通じたものづくりの魅力に気付いてもらい、プロを目指す道筋をガイドし、将来性のある人材の発掘・育成に取り組もうと始めたもの、これをデザイン部門委員会幹事として主催。カーデザインコンテストはこのイベントとして開催、本年度で4回目。
公益社団法人 三重県私学振興会 平成27年度三重県私学教育研修会 「デザインと美術の魅力」	2015. 8. 5	第1部「カーデザインとクレイモデル」をテーマとして体験講座を開講した。前半はカーデザインについての講義、後半ではクレイモデルの制作について実技指導を行った。 受講者は中高の教諭15名。
日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA) 主催『卒業制作展訪問』	2016. 1～3	会場：各大学卒業制作展会場 主催：日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック委員としてデザイン系大学、専門学校卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA賞を授与した。

<p>自動車技術会 デザイン部門委員会</p>	<p>2002～ 2002～2005 幹事 2012～2013 幹事</p>	<p>◇活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの源流にたずさわるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。 ・未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。 ・日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。 ・カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。 <p>◇活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム、フォーラムの開催 ・デザイン講習会開催 ・技術者との交流会 ・基準統一に関する働きかけ ・キッズエンジニア デザインイベント主催 ・中高生向け『カーデザインに挑戦』主催
<p>日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA)</p>	<p>2006. 4～</p>	<p>中部ブロック委員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントへの参加。</p>